

ことばを想う

おも

町田 健

子供の頃からことばへの関心は強かったように思う。母方の叔父が高校で国語の教師をしていたのだが、その叔父の蔵書の中に、日本語の使い方を小学生向けにやさしく解説した本があった。母の実家に行くたびに、その本を読むのが楽しみだったことを今でも覚えていいる。内容はほとんど忘れてしまったが、「おとうさん」「おかあさん」という単語は明治になってから作られ

NHKラジオの語学講座の中からフランス語とドイツ語を選んでテキストを購入し、初級編を毎日聞いた。英語だけでも大変なのだから、ほかの外国語を二つも学習するのが困難なのは間違いない。ただ、フランス語の単語は英語とよく似ているので（実際は、英語がフランス語の単語を大量に借用したのだが）、仏和辞典を頼りに、何とか少しばかりは上達した。

ことばへの関心

高校に入ると他の科目の勉強が忙しいし、何より英語に力を注ぐ必要があったので、フランス語の勉強はやめてしまった。ただ、理由ははっきりしないのだが、大学生になったらフランス語を勉強するつもりではなかった。とにかく語学の勉強が好きだったということだろう。

たものだという解説に驚いたのだけは覚えている。中学に入ると英語の勉強は熱心に行った。当時の英語の先生は、定年間の老人だったが、英語ということばについて丁寧に解説してくれた。ことばの仕組みを探ろうという心は、この時期に生まれたのかもしれない。おかげで英語が得意になったので、今度はほかの言語も学んでみようという欲が出てきた。



大学入学後は、フランス語は当然のこととして、ドイツ語、ラテン語、ギリシャ語、スペイン語、イタリア語など、とにかくできるだけたくさん外国語を勉強することに没頭した。ただ、一人の人間がいくつもの外国語を同様にきちんと習得することが不可能なのは分かっている。私の場合も、結局はフランス語と英語がそれなりに上達しただけだったが、その経験は今でも役に立っている。（言語学者。カットはヒラノトシユキさん）